今日のイラスト 504　「 イラストでたどる石州街道①　小郡 津市道標 」　　古谷眞之助

イラストでたどる萩往還シリーズは先月で 36 回をもって終了し、今月 4/13～18 に「イラストでたどる萩往還三十六景」展を山口市菜香亭で開催したが、実に 398 名もの方にご覧いただいた。4 回目のイラスト展で自己記録の更新である。多くの方に楽しんでいただけたことをとても嬉しく思っているし、予想以上の手応えを感じることが出来た。正に身に余る光栄である。有難いことに、萩往還終了以前に石州街道の連載の打診をサンデー山口紙から受けていたので二つ返事で応諾した。というのも、やまぐち萩往還語り部の会では、萩往還に続いて石州街道もガイドエリアに含めるべく 2 年前から調査ウォークを続けており、私自身もコースの半分を都合 3 回歩いていて、ほぼ中間点の篠目までは熟知しているからである。そして 18 回までのイラスト画はすでに描いているから気分的に楽である。連載開始後 1 年後頃に残りの約 24km を「あとう観光協会」のガイドさんと 3 回位に分けて取材を兼ねて歩く計画でいる。1 日平均 8kmのウォークだから、絵になる場所、興味深い歴史のある場所をたっぷり余裕を持って丹念に巡りたいと思っているところである。

イラストでたどる石州街道 01 小郡 津市道標

萩往還に続いて、長州藩の主要街道の一つ、石州街道をイラストとミニ解説で辿ってみたい。石州街道は小郡と津和野藩との国境とを結ぶ約52キロの街道である。歴史的には萩往還より古く、すでに室町時代には整備されており、ザビエルや雪舟もこの道を経由して山口に入ったと言われている。庶民の生活道でもあったが、幕末に藩庁が山口に移されると、山口と下関とを結ぶ政治の道として多くの志士たちが駆け抜けた歴史街道でもある。新山口駅の北北東約1キロ、山陽道と石州街道の交点に街道の起点、津市の道標が建っている。「右 京、江戸」「左 山口、石見」と記してあるが、これはレプリカで、本物は近くの民家の庭にあるので注意されたい。

文・イラスト＝古谷眞之助

さて、石州街道の出発点は山陽道との交点である小郡・津市だが、それほど風情のある場所ではないと言っておいた方が良いだろう。看板がなければ見落としそうなところで、現在の 2 号線、9 号線からも離れた場所にある。この近くには小郡勘場（ 代官所 ）・御茶屋（ 藩主の宿泊場所 ）跡があり、井上馨が代官として勤務していた頃には山県有朋も小郡にいて、この付近に住んでいたようだ。山県の仕事は小郡勘場の代官の警護役だった。御茶屋は 138 坪、23 部屋あり、勘場はこれに隣接していた。勘場に代官が務めるのは年 3 回、3 か月程度で、それ以外は小郡宰判の大庄屋が取り仕切っていた。また、ここでは下関講和会議の事前会議が行われ、高杉、井上、伊藤が毛利元徳公や藩幹部と相談したと言われている。講和会議での 3 人の活躍ぶりは良く知られており、高杉が変名を使って全権となり、伊藤と井上が通訳を務めた。英国帰りとは言え在英半年程度の彼らに難しい講和会議での通訳が務められたのは、英国側の通訳アーネスト・サトウの存在が大きかった。彼は流暢な日本語を話し、候文まで理解したと言われている。（ 2022.4.27 記 ）